

5 本時の学習指導

(1) 目標

事件の判決を決定するまでの過程において、資料を基に根拠をもって多面的・多角的に考えることができる。
(思考・判断・表現)

(2) 『本時』における学びをたのしむ生徒の姿について

前時で扱った事件とは被告人の年齢、家庭環境などいくつか条件を変えて判決を考えることで、さらに課題を追及したいという意欲的な姿勢を引き出したい。また、判決が一通り出たところで、学級の実態に合わせた補助資料を提示し、問い返すことで生徒の思考を揺さぶり、多面的・多角的に事件を判断し、課題を追及する姿を目指す。さらに、判決を考える過程について振り返りをし、学級全体で共有することで裁判の意義について考え、裁判が私たちの生活の中でどのような役割を担っているかを実感させたい。

(3) 本時の学習展開

生徒が思考し続けるための 教師の意図的な働きかけ 手だて②	予想する生徒の姿	手だての有効性はどうであったか (生徒の姿の実際・改善点など)
1 前時で扱った事件に別の条件を加えた場合、どういう判決になるのか考える。 「どんな判決が妥当だろう」という追及への意欲を引き出すために、年齢や家庭環境など条件を変えた事件を取り扱う。 T:「19歳の被告人を大人と同じ判決にしますか」	・18歳は成人だから大人と同じように刑罰が必要だよ。 ・まだ10代だから、少年院に送るのがいいと思うよ。 ・家庭環境を考えると保護観察処分で更生できると思うよ	
2 新たに資料を提示し、課題について再考する。 生徒が自分の判決を多面的・多角的に考えられるように、生徒を揺さぶる資料を提示する。	・子どもの権利条約によると、子どもは守られる存在であると考えられているよ。 ・成人年齢の引き下げにより、自分で責任を取ることが求められるようになったよ。 ・被害者の思いを考えると、罪を償うことが求められるよ。	
3 個人で最終的な判決を出した上で、学級全体で共有する。 裁判所の役割に気付かせるために、個人の判決を話し合わせ、判決を出す上で大切にしていたことを共有できるようにする。	・刑罰が必要だと思ったよ。被害者の人権を守ることを意識したよ。 ・少年院送致にしたよ。被告人が1番更生できる判決にしたよ。 ・保護観察処分にしたよ。被告人の人権を守ることを大切にしたいよ。	
成長や課題を認識し、次の学びにつなげる「振り返り」の活用 手だて③		
4 振り返りを書く。 級友と自分の意見を比較し、客観視したうえで、新たな考えに気付けるように、振り返りの視点を【③友達と話し合っ感じたこと】と【④次に生かしたいこと】に設定する。	③友達と話し合っ感じたこと 裁判はいろいろな人の立場を考えて判決を出す必要があることが分かった。 ④次に生かしたいこと 裁判の役割が分かったよ。大人になって、今日の学びを生かしていきたい。	

(4) 評価

事件の判決を決定するまでの過程において、資料をもとに根拠をもって多面的に考えることができたか、話し合いの様子やワークシートの記述により判断する。